



2008年度 決算説明資料

保土谷化学工業株式会社

<http://www.hodogaya.co.jp/>



I. 2008年度 実績(連結)

2008年度の決算概要

➤ 前年比、大幅な減収・減益

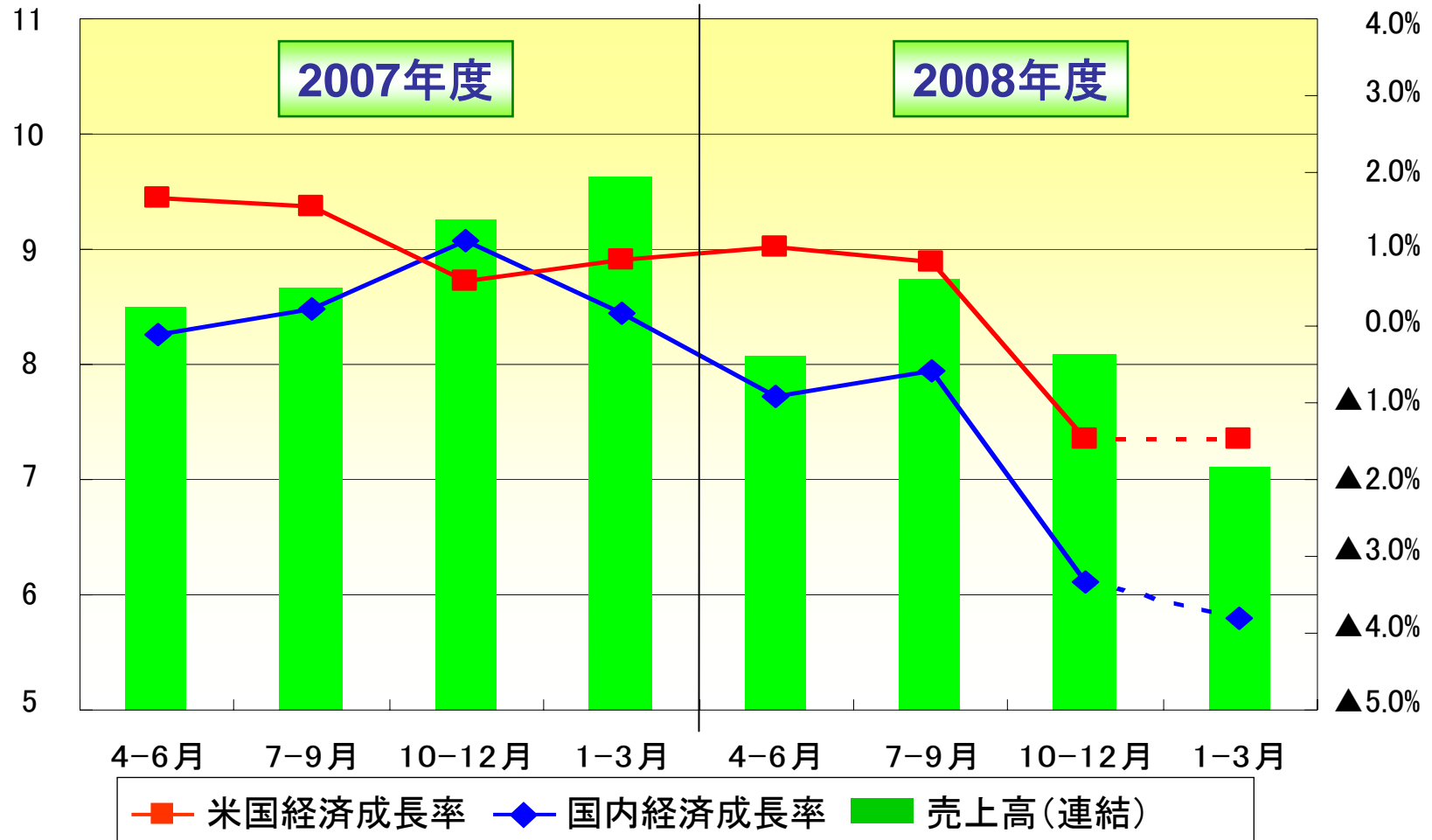
- ・下期の業績悪化が顕著
- ・販売数量減少の影響が大

➤ 営業利益、経常利益は黒字を確保したものの、
経営基盤強化のための諸施策実行により
特別損失を計上し、当期純利益は赤字に

経済成長率と業績推移(連結)

売上高(連結)
(単位：十億円)

経済成長率
(%)



業績概要(連結)

単位:百万円

科 目	2007年度		2008年度		増 減 (率)	
売 上 高	36,070		32,099		▲3,970	▲11.0%
営 業 利 益	2,715	7.5%	927	2.9%	▲1,788	▲65.8%
経 常 利 益	2,462	6.8%	367	1.1%	▲2,094	▲85.1%
特 別 利 益	63		1,356		1,292	
特 別 損 失	1,055		3,778		2,723	
法 人 税 他	335		1,887		1,552	
当 期 純 利 益	1,135	3.1%	▲3,943	▲12.3%	▲5,078	—

上期・下期別 業績概要(連結)

単位:百万円

	2007年度		2008年度		増 減	
	上 期	下 期	上 期	下 期	上 期	下 期
売 上 高	17,172	18,897	16,807	15,291	▲365	▲3,605
営 業 利 益	1,250	1,464	503	424	▲747	▲1,040
経 常 利 益	1,360	1,101	403	▲36	▲956	▲1,138

セグメント別事業内容

セグメント

事業

主要製品

精密化学品

電子材料

色素材料

特殊化学品

アグロサイエンス

トナー用電荷制御剤(CCA)、有機光導電体材料(OPC)、有機EL材料
スピロン染料、カチロン染料、塩基性染料、食品添加物
ホスゲン誘導体、医薬・樹脂材料・電子材料用各種中間体
農薬原体、製剤

機能性樹脂

樹脂材料

建材

PTG、接着剤、剥離剤、硬化剤

ウレタン系、セメント系各種土木建築用材料

基礎化学品

工業薬品

過酸化水素、一般化学工業基礎原料

その他

危険物倉庫、カーボンナノチューブ、その他

セグメント別売上高(連結)

- 事業買収効果 (保土谷UPL(株)、保土谷バンデックス建材(株)および保土谷ロジスティックス(株)の新倉庫稼動があったものの、世界的な需要後退の影響に伴う、電子材料・樹脂材料等の販売不振により、大幅な減収
- 減収の主要因は、数量差(販売数量減少)

単位:百万円

セグメント	2007年度	2008年度	増減
精密化学品	13,610	12,724	▲ 885
機能性樹脂	11,282	8,917	▲ 2,365
基礎化学品	8,794	8,179	▲ 614
その他	2,382	2,277	▲ 104
合計	36,070	32,099	▲ 3,970

セグメント別営業利益(連結)

- 営業利益は、全セグメントにおいて黒字確保したものの、販売数量の減少やERP稼動に伴う営業固定費等の増加により減益
- 減益の主要因は、数量差と販管費差*

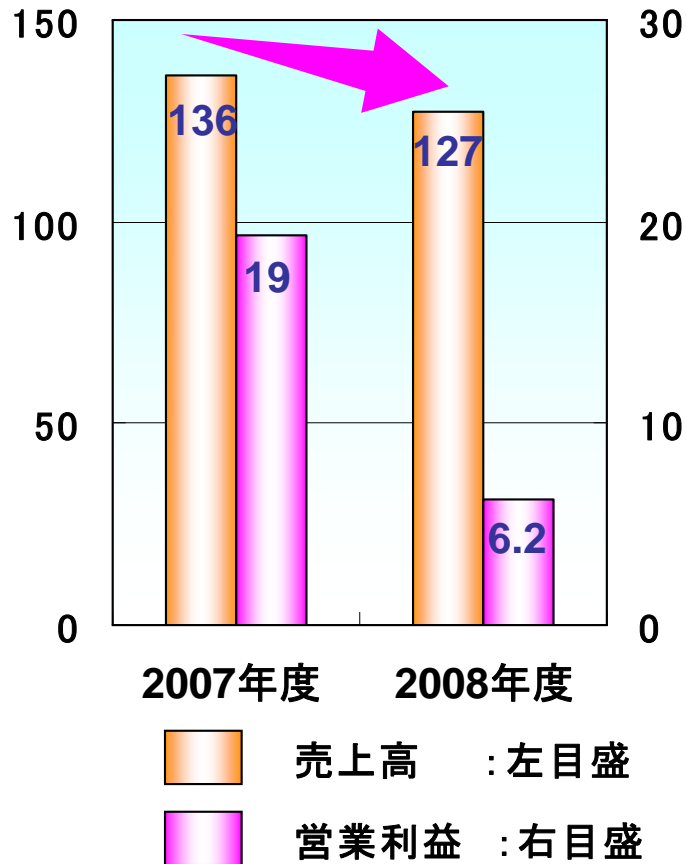
* 販管費：販売費、一般管理費

単位：百万円

セグメント	2007年度	2008年度	増減
精密化学品	1,930	623	▲ 1,306
機能性樹脂	368	63	▲ 304
基礎化学品	374	233	▲ 141
その他	36	7	▲ 29
合計	2,715	927	▲ 1,788

精密化学品セグメント

単位: 億円



アグロ

製品ラインナップの拡充、
事業買収

➡ 増加

色素
材料

景気後退による需要減

➡ 減少

有機EL

世界的な携帯電話の
販売不振

➡ 減少

電子
材料

安価品との競争激化、
景気後退による顧客の在庫調整

➡ 減少

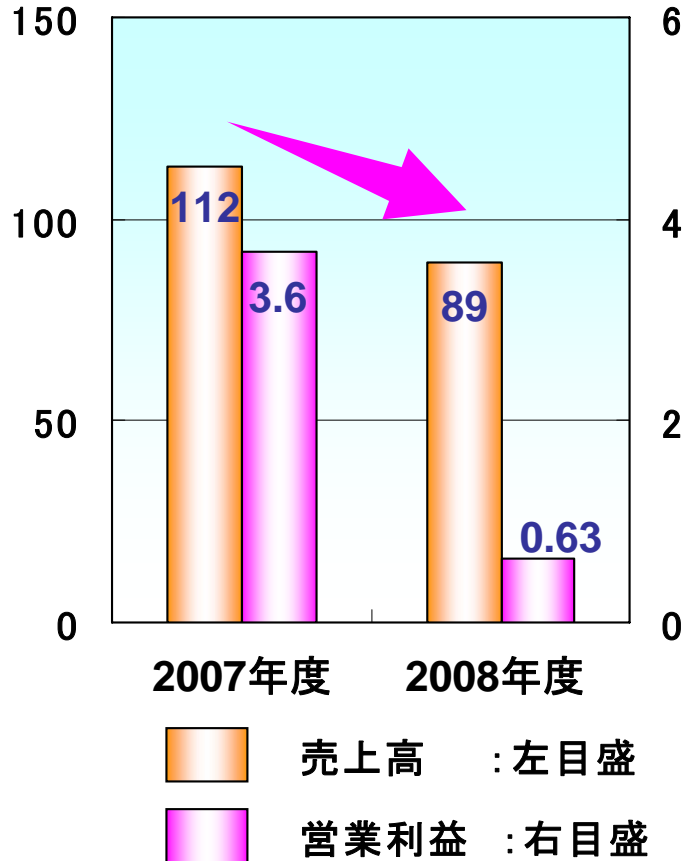
特殊
化学品

医薬品・自動車・半導体業界での
不振による需要減

➡ 減少

機能性樹脂セグメント

単位:億円



建材
(材料販売)

企業買収・合併、拡販、
製品価格是正

➡ 増加

樹脂
材料

PTG・接着剤における、
顧客の在庫調整

➡ 減少

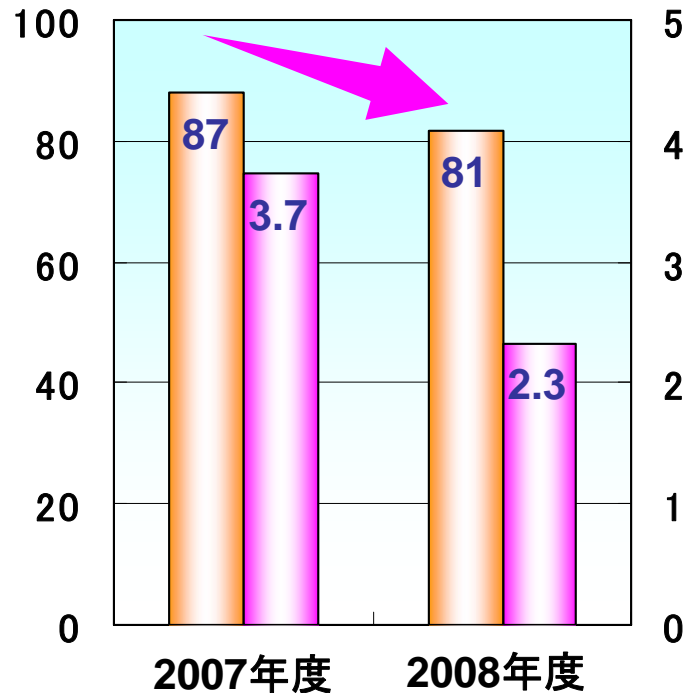
鑄材

製造受託終了

↓ ゼロ

基礎化学品セグメント

単位:億円



売上高 : 左目盛
営業利益 : 右目盛

過酸化水素

紙パルプ等関連
業界の減産

減少

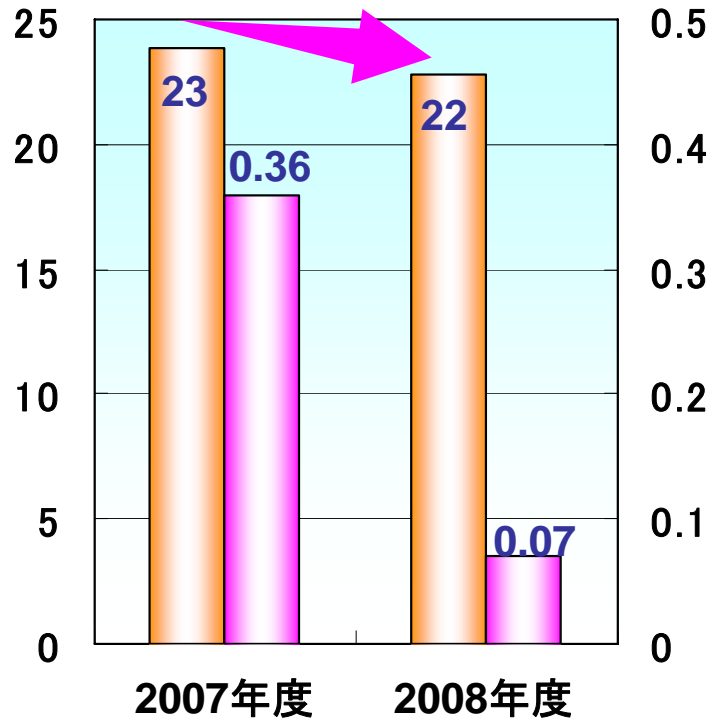
基礎原料

景気後退による
需要減少

減少

その他セグメント

単位:億円



売上高 : 左目盛
営業利益 : 右目盛

- 危険物倉庫 新倉庫稼動 → 増加
- 建材(工事) 企業買収・合併 → 増加
- その他 製造受託終了 ↓ ゼロ

特別利益

「高機能・高付加価値創出型企业」への転換加速を目的として、下記項目を実施し、特別利益を計上

- ・ 日本ポリウレタン工業(株)(NPU)株式の追加売却
 - NPUに対する出資比率が、48.3%から19.7%に低下
これにより、NPUは当社の持分法適用会社から外れた
 - 売却代金の一部により、有利子負債の削減を実施(約35億円)

特別損失

将来に向け、下記の重要な諸施策を実施し、特別損失を計上。

- ・退職金・退職年金制度の改定
- ・固定資産の除却
- ・保土谷ロジスティックス (株) (HLC) の経営基盤の強化
- ・ナノカーボンテクノロジーズ (株) の解散・清算
- ・投資有価証券評価損

重要な諸施策①

退職金・退職年金制度の改定

特別損失 約8億円

- 現行の適格退職年金制度は、平成24年3月末で廃止のため、下記の目的を早期に実現すべく、退職金・退職年金制度を改定

(制度改定の目的)

- ・従業員の生活設計の多様化に対応
- ・将来に亘って負担する損失を一括拠出することにより抑制

➡ 年間負担額 約2億円の軽減

重要な諸施策②

固定資産の除却

特別損失 約2億円

➤ 事業の見直し等により、不要・遊休となった固定資産を財務体質の一層の健全化を目的に、速やかに除却・撤去を実施

➡ 将来の償却負担軽減に

重要な諸施策③

保土谷ロジスティクス (株) (HLC) の経営基盤の強化

- 事業規模の割には、過大な土地・借入金があり、財務体質改善が急務であった

➡ HLCが保有する土地を、保土谷化学が買入れ



HLCは土地の売却損が発生し、債務超過に



HLCは、債務超過を解消するため、減資・増資を行う予定



HLCは、本業に専念できる体制に

重要な諸施策④

ナノカーボンテクノロジーズ(株)の解散・清算

➤ 2006年4月の設立以来、本格的な事業化を目的として取り組んできた



➤ 新素材を製造・開発・販売する一連の知見を得たが、市場の広がりにはまだ一定の時間を要すると判断し、解散・清算することを決定



➤ 今後は、保土谷化学内で開発案件として取り組む
➡ 「カーボンナノチューブ開発推進部」を立ち上げ

重要な諸施策⑤

投資有価証券評価損

特別損失 約25億円

- 世界的な景気後退等に伴う金融・経済情勢の悪化により、投資有価証券の時価および実質価格が著しく下落
 - ➡ 今後の外部環境の変化に伴う、株価変動による当社の収益への影響は大幅に軽減

その他の施策

繰延税金資産の取崩他

法人税等調整額 約12億円

- 将来の景気動向が不透明なことにより、財務の健全性の観点から、繰延税金資産の取崩を実施

貸借対照表(連結)

2008年3月末

単位:億円、()内は%

2009年3月末

652億円

514億円

流動資産 227 (34.8)	負債 294 (45.2)
(内 棚卸資産) 48 (7.5)	(銀行借入等) 166 (25.6)
有形・無形 固定資産 226 (34.7)	純資産 357 (54.8)
投資その他 199 (30.5)	

流動資産 233 (45.3)	負債 242 (47.0)
(内 棚卸資産) 62 (12.1)	(銀行借入等) 131 (25.5)
有形・無形 固定資産 220 (42.7)	純資産 272 (53.0)
投資その他 61 (11.9)	



Ⅱ.個別(= 保土谷化学・単体)の概況

業績概要(個別)

単位:百万円

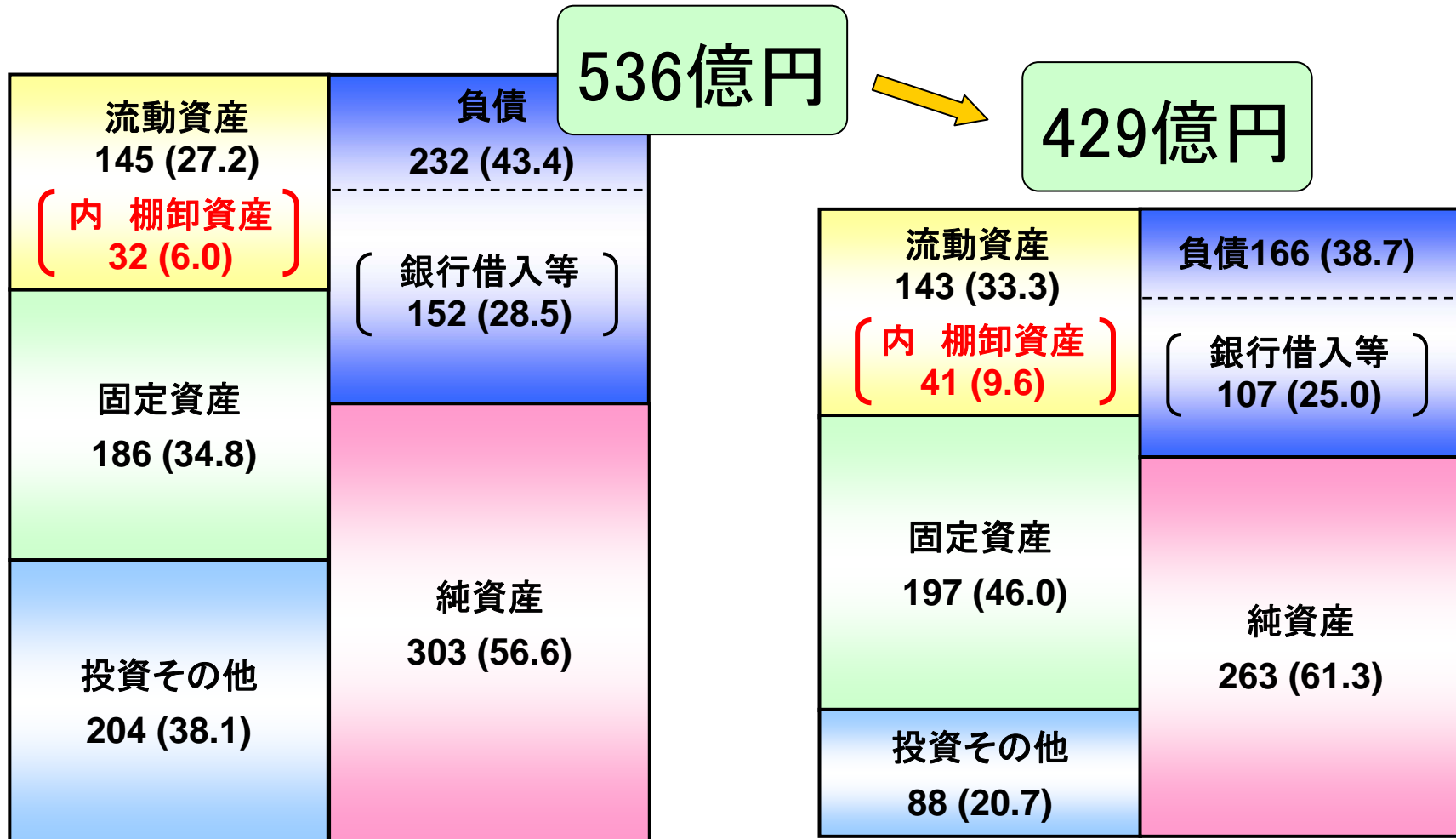
科 目	2007年度		2008年度		増 減 (率)	
売 上 高	21,800		16,713		▲5,086	▲23.3%
営 業 利 益	2,064	9.5%	458	2.7%	▲1,606	▲77.8%
営業外収益	847		802		▲44	
営業外費用	1,294		1,034		▲259	
経 常 利 益	1,617	7.4%	225	1.4%	▲1,391	▲86.0%
特別利益	63		4,937		4,874	
特別損失	1,198		5,764		4,566	
法人税他	208		1,680		1,472	
当期純利益	273	1.3%	▲2,282	▲13.7%	▲2,555	—

貸借対照表の比較(個別)

2008年3月末

単位:億円、()内は%

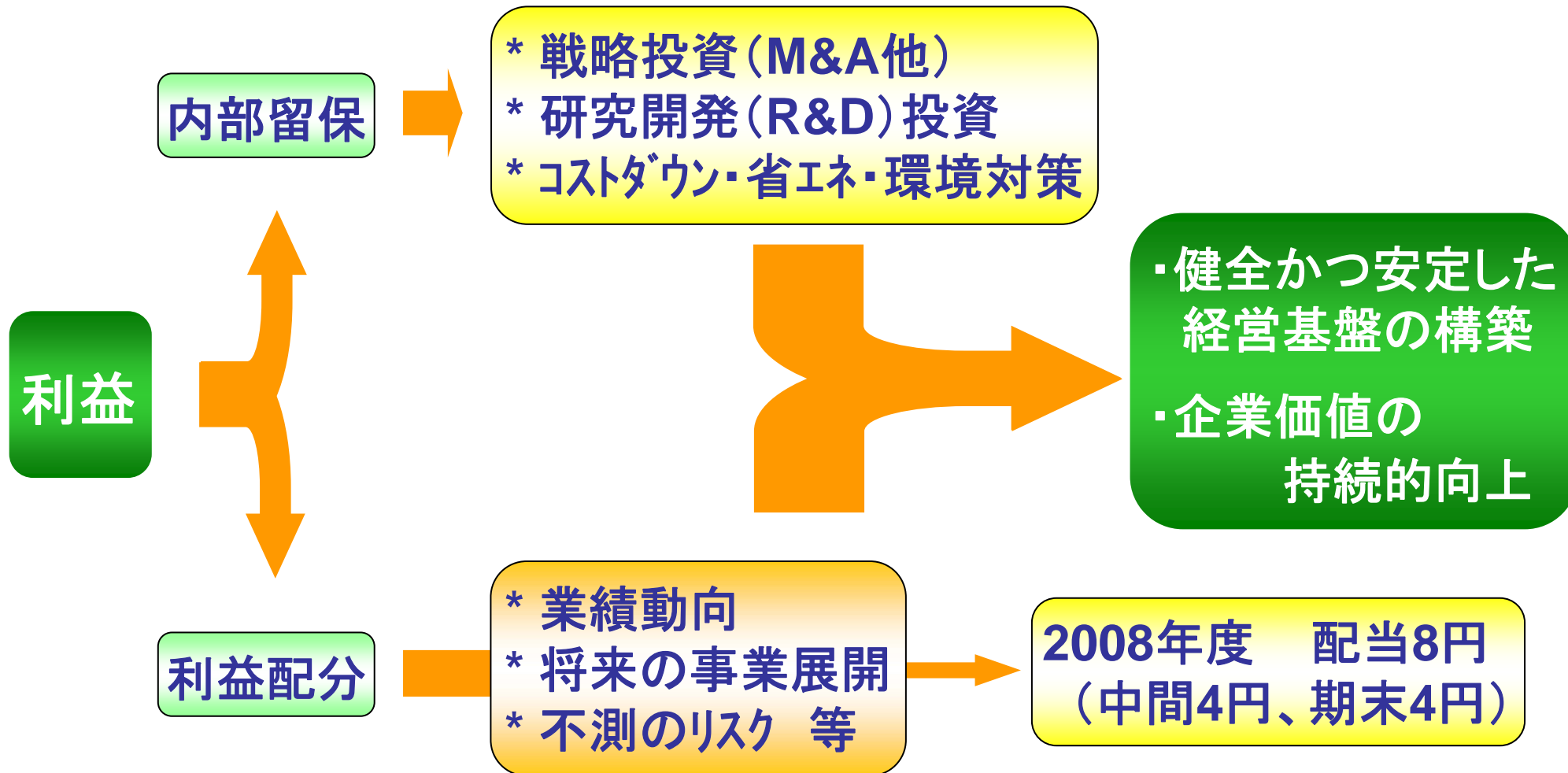
2009年3月末





Ⅲ. 利益配分に関する基本方針 および2008年度の配当

利益配分に関する基本方針 および2008年度の配当





IV. 2008年度のトピックス

2008年度のトピックス①

2008年

- 5月 9日 日本ポリウレタン工業(株)の株式売却
— 48.3%から19.7% → 持分法適用会社から外れる
- 10月20日 韓国事務所を開設
- 11月 5日 「3M」との有機ELに関する共同開発(学会で発表)
- 11月13日 「Novaled AG社(独)」との有機ELに関する共同開発
- 11月17日 保土谷UPL(株)が、三共アグロ(株)(現 三井化学アグロ(株))よりイソキサチオン剤(殺虫剤)事業を買収
- 12月 1日 保土谷建材工業(株)が、日本バンデックス(株)を吸収合併
→ 社名を「保土谷バンデックス建材(株)」へ変更

2008年度のトピックス②


2009年

3月23日 「保土谷ロジスティックス(株)」の経営基盤を強化

3月31日 「ナノカーボンテクノロジーズ(株)」を解散

4月 1日 「カーボンナノチューブ開発推進部」立ち上げ
— 新組織体制

退職金・退職年金制度の改定



V. 2009年度 業績および配当予想

2009年度 業績および配当予想

▶ 業績予想

単位：百万円

科 目	個 別	連 結
売 上 高	16,000	32,000
営 業 利 益	400	1,300
経 常 利 益	0	500
当 期 純 利 益	0	500

▶ 配当予想

年間 8円（中間4円、期末4円）維持を目標に

グループ経営理念

私たちは、化学技術の絶えざる革新を通じ、
お客様が期待し満足する高品質の製品・
サービスを世界に提供し、環境調和型の
生活文化の創造に貢献します。